

2025 年度 グローバルラーニングセンターFD 活動報告書

2025 年度におけるグローバルラーニングセンターの FD 活動は、全学の FD 方針に基づき、以下の取り組みを中心に実施した。

1. 105 分授業への対応

活動内容と成果

2024 年 4 月から 5 月にかけて、日本語、中国語、英語の各語学授業の 105 分化に伴う課題の検討が行われた。初回では、本 FD の実施スケジュールおよび内容の確認が行われ、方向性を確認した。9 月から 11 月は、授業デザインを行うにあたって考慮すべきことをリスト化した「105 分授業デザインチェックリスト」を作成し、ワーキンググループ内で共有した。11 月中旬からは、日本語、中国語、英語のシラバス案を作成し、ワーキンググループで共有した。その際、上述の「105 分授業デザインチェックリスト」に照らして検討を行った。

評価

日本語、中国語、英語の各言語の「授業デザインチェックリスト」を作成するに至ったことは、目に見える形の成果である。また、ワーキンググループ内および GLC 内でチェックリストを共有することにより、具体的な授業改善につながる活動であったと評価できる。

2. 日本語 S コースの構築

活動内容と成果

S レベルの日本語科目（「日本語 I・II」「日本語特講 I・II」）履修者および科目担当教員を対象としたインタビュー調査を実施した。まず、5 月～7 月に質問項目を洗い出し、7 月～8 月にかけて留学生 15 名、教員 7 名に対面またはオンラインによるインタビュー調査を実施した。9 月には、後期授業の教材や方法の一部に調査から得られた結果を反映し、改善を行った。11 月以降は、2025 年度のシラバス作成に向けて、本 FD 活動の結果をまとめた。

評価

インタビューを通じて、授業内容や教科書に関する学生および教員の回答から、学生の関心や学修スタイルとの間にズレがあったことが分かった。また、学生および教員の回答から、個々の学生がどのような点に関心を示していたのかを知ることができた。そしてコース（Sレベル）のコンセプトが教員間で十分に共有できていないという実情が明らかとなった。これらの課題点を洗い出すことができたことは、一つの成果である。課題点を踏まえ、今後の日本語コースの開発、改善を期待したい。

3. 国際共修 Can-Do

活動内容と成果

全4回のFDが計画され、国際共修科目を担当する教員5名が参加した。4月に行われたFDでは、国際共修のカギとなる「教え合い、学びあう」という授業スタイルに注目しつつ、各自が担当する国際共修科目の授業内容を紹介し合った。7月は授業内容に基づき、どのような「共通する Can-Do」が在りうるか検討し、リストアップした。10月は7月の継続で、「科目独自の Can-Do」を検討した。最後となる12月のFDは、「多様性を知る」「共修する」「内省する」という3つの能力で挙げられてきた Can-Do リストを「基礎」と「発展」に分ける作業を行った。

評価

「多様性を知る」「共修する」「内省する」という3つの国際共修科目の到達目標に合わせた Can-Do リストを作成するFDを行い、50以上の異なる Can-Do が結果としてリストアップされたのは、ひとつの成果であった。2025年度のFDでは具体的にシラバスや授業内容にFDの結果を反映させることができるよう期待したい。